

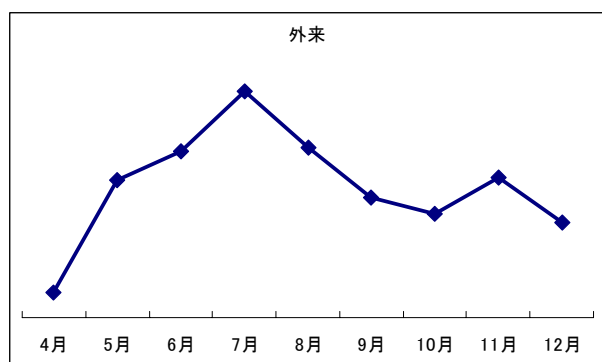
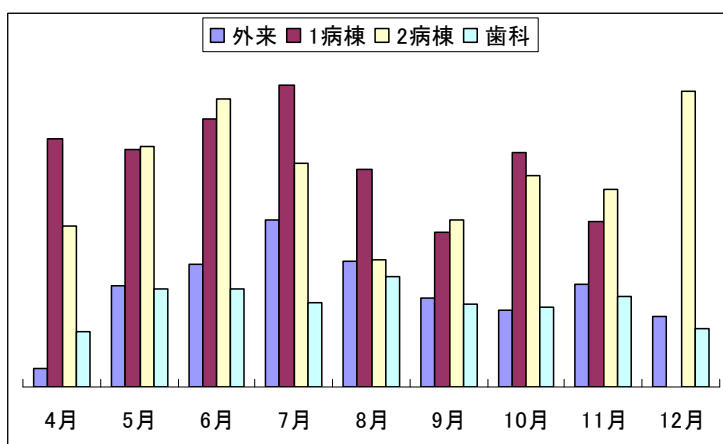
院内における擦式消毒薬の使用量

擦式消毒薬の「1処置1手指衛生」をICTとして啓発し、使用感を高めるために消毒薬の変更などを行ってきました。

右図は、平成20年4月から12月までの月単位使用量です。

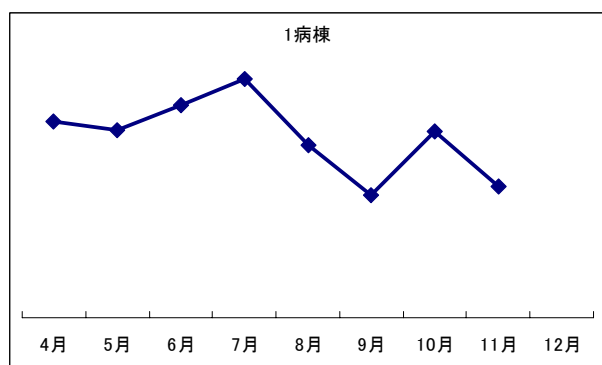
使用人数や頻度によって各部署での総使用量には差があります。

各部署での変化を見てもみますと・・・



【医科外来】

科別の使用量はかなりばらつきがありますが、使用量の増加があまりみられない理由のひとつとして、**ベタツキ感**があります。(Dr、スタッフより) 近いうちに他の擦式消毒薬が入るのでまた、Drやスタッフの感想を聞いていこうと思っています。

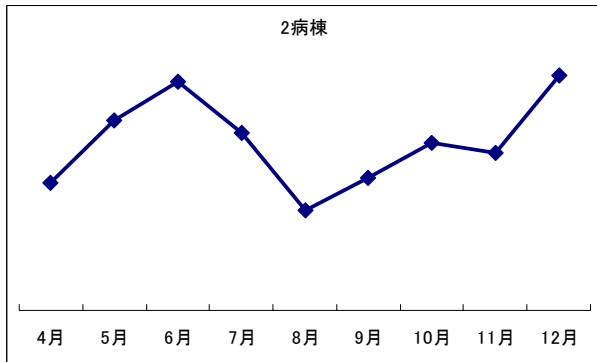


【1病棟】

1Wのスタッフは、必要性を説明した後からも積極的に擦式消毒剤を使用してくれていました。『擦り込むと粉が出る』という不評や『使用すると手が赤くなる』と体に合わないスタッフもいて手洗いを主に行うスタッフもいましたが、1処置1手指衛生を目標にしてもらいました。

9月が大きく使用量が少ないですが、9月は入院患者様の数も少なくケアを要する患者様も少ないことが原因だと思われます。「使用量が少ない」=「悪い」とは言えません。

1Wには、化学療法を行う患者様や抵抗力の弱い患者様とともに、感染症の患者様まで入院します。これからも、**1処置1手指衛生**を確実に実施してもらい、医療者の安全管理と院内感染予防を啓発するとともに、面会の方にも手指衛生の必要性を説明し、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。



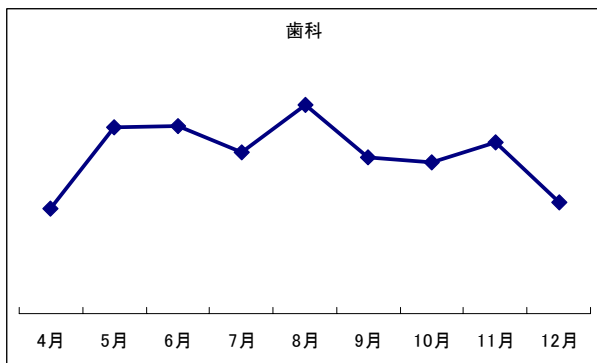
【2病棟】

入院患者数は1ヶ月あたり、のべ450～550名程度で大幅な患者数の差はありません。月毎に使用量の差が見られるのは、以下のことが考えられます。

- ① 手術件数の差で、術後ケア必要量に差があった。
- ② 重症患者数に差があり、おむつ交換などの看護ケアの必要量に差があった。
- ③ 介助が必要な患者数に差があり、おむつ交換などの看護ケアの必要量に差があった。

スタッフの擦式手指消毒薬の使用状況を観察すると、1処置ごとの使用がだいぶ浸透してきたように思います。しかし、手荒れの季節になってくると使用を控えてくる傾向が見られるため、今後も1処置1手洗いの啓蒙活動を行っていきたいと思います。

手洗いによる感染経路の遮断を行い、院内感染が起きないよう皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。



【歯科外来】

今年4月からICT委員としてミーティングに初参加し、「正しい手洗い」と「擦式手指消毒剤」の有用性を知り、歯科に持ち帰りました。

設置場所を3箇所から7箇所に増やし、各ユニットサイドと中央・サプライコーナーに設置しました。

1患者に対し1手洗い→1グローブ→1手洗いの流れを1手洗い→1擦式手指消毒→1グローブ→

1手洗いとしたところ、5月からの擦式手指消毒剤の使用量が大幅に増加しました。これは「正しい手洗い」と「擦式手指消毒剤」を併用することで「医療従事者の手指を介した交差感染の予防と、病原体から医療従事者を守る」事を歯科スタッフに理解してもらえた結果であると考えます。今後も定期的な啓蒙活動を行い、スタッフ間の院内感染防止のレベル向上を目指したいと思います。